

地域インフラに 価値を見いだす

JAAMが講演会

日本アセットマネジメント協会（JAAM）は23日、東北大学と共催で「産官学連携・地域アセットマネジメント講演会 地域のアセットを守り、その価値を高めるために」をオンライン形式で開いた。約200人が参加し、地域インフラを維持管理するだけでなく、資産（アセット）として運用するための方策を探った。

施設の整備・維持管理に際し、アセットマネジメントの考え方を取り入れ、より効率的に業務を実施していきたい」と述べた。また、東日本大震災の復興記念事業の状況について紹介した。

講演会では、久田委員長が「産官学連携で地域アセットを活かす」と題して基調講演した。

続いて、水谷哲也仙台市下水道計画課長が「仙台市のアセットマネジメントの実践と効果」、水谷大二郎東北大学大学院工学研究科助教授が「実践！アセットの健全度評価・予測・制御に役立つ手法」、猪爪一良JAAMインフラマネジメント実践小委員会委員長が「地方自治体などと民間企業はどう連携・サポートしていくか」とそれぞれ題して講演した。

主催者を代表して、JAAM産官学連携小委員会委員長の久田真東北大学院工学研究科土木工学専攻教授が「全国的にインフラの老朽化が進行する中、地方自治体では恒常的に担い手・財源不足の状況が続いている。インフラに価値を見いだし、新しいビジネスを生み出すきっかけとなるアセットマネジメントの先進的な取り組みを学んでいただきたい」とあいさつした。

来賓の梅野修一東北地方整備局長は「道路や橋梁、トンネル、河川などの社会インフラ政策参与が討論した。」

講演後、「地域のための産官学連携の意義とアセットマネジメントの役割」をテーマに、各講演者と近藤三津枝JAAM顧問、植野芳彦富山市